

第1回さわらび部会でまとめた「検討の方向性①～④」については、職員・利用者との意見交換を踏まえ、以下のとおりとします。

※赤字は第2回全体会資料から修正した箇所

検討の方向性	対応	具体的な内容
①長寿命化調査の結果を踏まえた施設の改修・建替	- 他県の施設等を参考にしながら、障がい児者やその家族等が利用しやすい施設となるよう検討を進めていく。 - コンクリートの劣化が進行しており、現在の建物の改修による継続使用は困難と判断されることから、整備費用比較調査では、移転建替に係る費用の経費シミュレーションを行う。	- 他県施設の視察等を踏まえ、全ての利用者が円滑にかつ安全安心に利用でき、職員の動線等が考慮された働きやすい施設とする。 - さわらびは立地に問題があり、利用者の減少、人員不足など様々な弊害を生じていることから、整備費用比較調査では、移転建替についてのみ経費シミュレーションを行う。
②今後の施設の機能と規模	外部コンサルタントを交え、津軽圏域における診療及び障がい福祉サービス需要を踏まえた上で、必要な機能及び規模について検討していく。	- 津軽圏域に医療的ケア児を受け入れる短期入所等が少ないため、さわらびに期待する意見あり。 - 通所での入浴サービス導入への意見あり。 - さわらびでのリハビリの需要は多い。 - 者の入所は満杯状態であり、定員増の要望あり。 - 生活介護や短期入所における送迎を求める意見あり。 - 診療及びサービス需要と収支予測、立地を踏まえ、必要な機能及び定員について検討し、次回さわらび部会に提案する。 - あすなろとの連携の可能性についても検討する。
③継続的に医師が確保できる仕組みづくりやオンライン診療の導入	- 弘前大学等との連携を強化し、継続的な医師確保に取り組む。 - オンライン診療については、課題等を整理した上で導入について検討する。	- 医師の確保については、弘前大学と協議していく。 - 今年10月から小児科オンライン診療の試行が始まるが、障がい児者についてもオンライン診療が可能か検討し、次回さわらび部会に提案する。

検討の方向性	対応	具体的な内容
④津軽圏域における民間事業者も含めたサービス提供体制を踏まえた福祉部門（障がい児の入所・通所）のあり方	• R6年度中に短期入所利用者の洗濯への対応、児童発達支援サービス提供時間の拡大、放課後等デイサービスの送迎出発時間を学校長期休業中も平常時に同じにする改善を実施。 • 外部コンサルタントを交え、津軽圏域における障がい福祉サービスの提供体制を踏まえた上で、障がい児の入所・通所部門のあり方について検討していく。	• 入所は在宅介護の限界を超えたときの選択肢として必要の意見あり。 • 通所での入浴サービス導入への意見あり。 • 障がい児入所・通所部門のサービス需要と収支予測、立地を踏まえ、そのあり方について検討し、次回さわらび部会に提案する。 • 改善できる事項は随時改善していく。

【追加検討事項】

項目	現状と課題	検討の方向性
相談機能の充実	- 受入れを断るときの説明が不十分との意見あり。 - 他の医療機関・施設へつなぐ機能がない。	相談対応や制度説明などを適切に行えるよう、相談機能の充実について、次回さわらび部会までに検討する。
人材育成・職員の意識改革	- 長年職員が固定化している。 - 技術更新の遅れに懸念がある。	- 専門職員の人材育成について、次回さわらび部会までに検討する。 - さわらびの果たす役割の明確化に向けて次回さわらび部会までに検討する。